



子どもの気になる行動

1. 子どもの発達や行動で気になることはありませんか？

ほかの子どもとちょっと違う？みんなと同じように遊べない…子ども自身が困っていることや心配はありませんか？



発達のかたよりのあることを「発達障害」と言います。

これらの障害をもつ子どもは、すべてが遅れていたり難しいわけではありません。得意なことと不得意なことの差が大きいため、支援の必要性が見落とされ、困った行動ばかりが目についてしまいがちです。

- ・「がんばればできる」と思われ、無理な努力を強いられたりすることがあります。
- ・「言うことをきかない子」「しつけができない子」と思われることがあります。

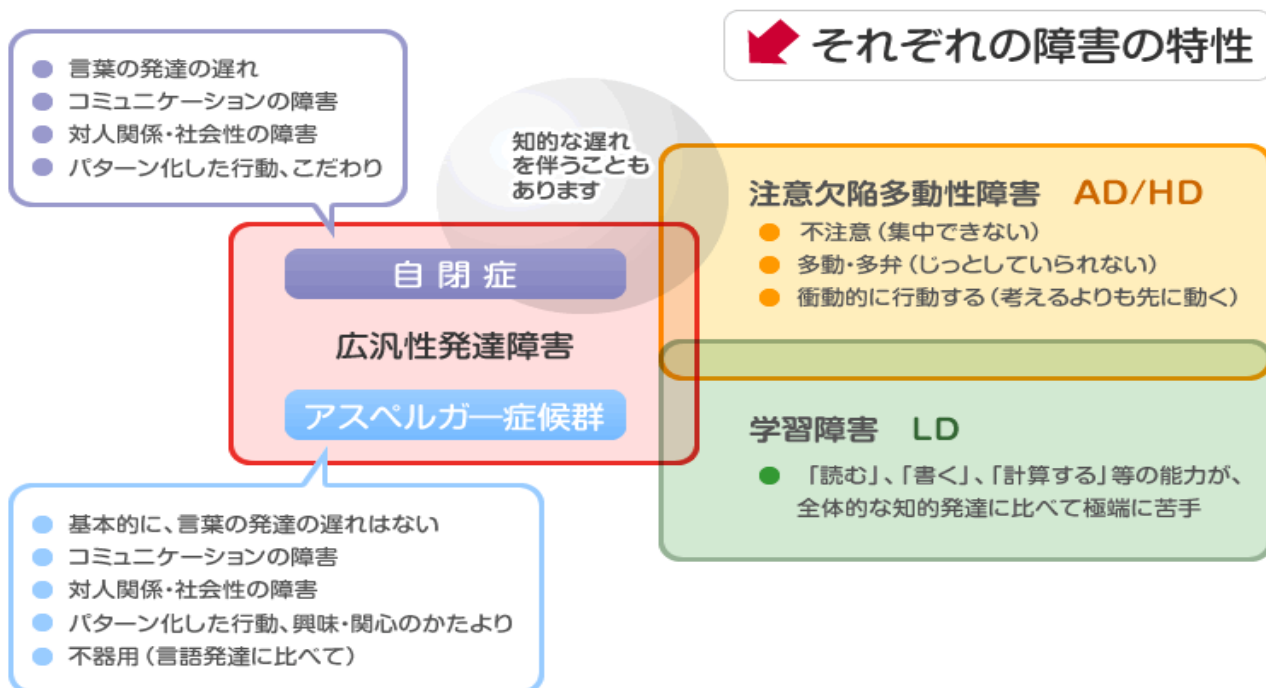
その結果、子ども自身や保護者が不安になったり苦しんだりします。

発達障害は、年齢や生活、保護者の育て方や本人の努力不足ではありません。本人の特性にあった支援や環境を整えると、子どもの力を伸ばすことができます。子どもの気になる行動があれば1人で悩まずに、早めに保育所（園）、保健センター、かかりつけ医などに気軽に相談してみましよう。

2. 発達障害とは

発達障害は、脳機能の発達が関係する生まれつきの障害で、多くの場合、精神遅滞(知的障害、精神発達遅滞)、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(AD/HD)、広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー障害など)の4つを指します。

これらに共通するのは、一定の発達・行動上の特徴が幼少児期からみられ、原因は脳の先天的な機能異常であるということです。



発達障害のある子どもは、社会で生きていくために必要な社会性やコミュニケーションが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると様々な問題や困難に直面することになります。またその行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」、「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。



適切なサポートがされないと、学校に行くことがストレスになり、不登校や引きこもりあるいはやがてうつ病になったり、非行に走ったりすることもあります。これを「二次障害」といい、もともともとて生まれた発達障害を正しく理解してもらえないために、「ふたつめ」の障害が生じてしまったという意味なのです。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものだ理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。



周囲の人たちが発達障害を正しく理解して子どもにあった支援をすることにより、「二次障害」を防ぐことは十分可能です。

発達障害のある子どもが、社会に適應する力を身につけながら自分らしく成長できるようにするためには、発達障害に早く気づき、適切な療育につなげることが重要です。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>